



近藤 健一 議員

勝幡駅前開発の現状は

質問

買取する土地が2筆残っていたが、円満解決したのか。

経済建設部長

本年度に理解を得られ契約することができた。これで土地59筆すべて完了した。

質問

海部津島土地開発公社から愛西市への買い戻し進捗状況は。

総務部長

21年度は23筆で2千884・77㎡、33・48%。22年度は17筆

で2千464・40㎡、37・84%。23年度は残り28・68%となる。

質問

愛西市が取得した土地、海部津島土地開発公社がもっている土地は、勝幡駅前開発工事が始まる前に使用できないか。

雨の日の朝、出勤・通学時に駅への車で混雑するため、Uターンができる場所を確保できないか。

また、グラウンドゴルフなどにも使用できないか。

都市計画課長

建物の取り壊しが終わった

後、必要最小限の工事を考えた中で、利用しやすい形はつくりたい。

防災「消火栓」の整備状況は

経済建設部長

踏み切り工事にあわせ、道路の線形をつくる工事を平成

23年度から一部着手するため、他の利用は難しい。



佐織地区の簡易消火栓

質問

市として消火栓をどのように位置づけるのか。

消防長

消防水利には消火栓、防火水槽、自然水利などがある。消火栓については、65ミリの口径を有するものと定め、40ミリの簡易消火栓は消防水

利としては該当しない。

佐織地区には40ミリの簡易消火栓が73カ所ある。40ミリの簡易消火栓は今後新設は行わず、現状維持としている。

佐織地区以外の地区へは、消火栓付近に40ミリホースを3本と、65ミリ口径から40ミリ口径へ落とす金具などを収納したホース格納箱を順次設

置している。

佐織地区は消火栓383、防火水槽154の計537。立田地区は消火栓231、防火水槽37の計268。八開地区は消火栓11、防火水槽69の計80。佐織地区は消火栓277、防火水槽104の計381。合計で消火栓が902、防火水槽が364の総合計1千266カ所である。

質問

消火栓ボックスを今後どのように整備し、どのように管理するのか。

総務部長

昨年度までに301基設置している。今年度も計画的に各自主防災会の会長と協議していく予定。維持管理については地域にお願いし、ホースの修理などについては、状況により消防署と協議していく。